

Go Beyond～今の自分を超えてゆけ！～

校長漫筆記

令和8年8月28日
姫路市立高等学校
校長通信 第18号
文責 平山智樹

「自ら超えてゆく」姿の美しさ ー オープンハイスクール大盛況の舞台裏で ー

8月18日・19日の2日間、本校にてオープンハイスクールを開催し、約2,100名もの方々にご参加いただき、大盛況のうちに終えることができました。

今回は生徒が企画した動画や部活動紹介に加え、本校の特色である「探究学習」「制服の自由化」「単位制」「学校の雰囲気」を伝える【オリジナル寸劇】を披露しました。アンケートでも「活気のある学校だと分かった」「生徒の生の声で雰囲気が知れて良かった」と大好評でした。



実は夏休み前、2日間4ステージを時間厳守で進めるため、教職員の間でも「失敗が少なく、時間配分が確実なインタビュー形式」を推す声が優勢でした。私自身もそれが現実的だと考えていた一人でした。しかし生徒会役員たちが校長室にやって来て、熱く訴えてきたのです。

「校長先生、私たちは絶対に寸劇で学校の魅力を伝えたいんです！ 昨年、中3の時に参加したオープンハイスクールで『もっと学校の様子が知りたかった』と思った。あの時の自分たちと同じ思いを、今年の中3年生には絶対にさせたくないんです！」

自分たちの経験を踏まえ、後輩たちのために真摯に想いをぶつけてくる姿に、私の心は深く動かされました。しかしただ許可するのではなく、あえて課題を与え試すことにしました。「時間の再考」「一番伝えたいことの絞り込み」「小道具や転換の工夫」を投げかけ、「それをクリアできたらもう一度プレゼンしに来なさい」と伝えました。

彼女らは校長室を出るやいなや廊下で議論を始め、そのまま生徒会室へ直行。翌日持参してきたシナリオは、前日とは見違えるほど具体的で鮮明なものになっていました。

私が「よく話し合ってきたね。OKです！」と答えた瞬間、生徒たちの顔に広がった安堵と、「絶対に成功させるぞ！」という強い決意の笑顔は、今も目に焼き付いています。

夏休み中、補習や部活動で多忙を極める中、生徒たちは練習を重ねてくれました。本番の舞台で見せてくれたパフォーマンスは、事前に見たシナリオを遥かに超える、熱意と工夫に溢れた素晴らしいものでした。

与えられた枠組みに収まるのではなく、課題に向き合い、自らの意思と努力で高い壁を乗り越えてゆく。これこそが、「Go Beyond 今の自分を超えてゆけ」の体現そのものです。生徒たちが見事な背中を見せてくれたことを、校長として心から誇りに思います。姫路市立高校の未来は、この生徒たちの手で確実に輝き始めています。